

東京大学大学院医学系研究科・医学部  
男女共同参画委員会主催  
医学系キャリア支援のための交流会  
開催報告および参加者アンケート集計結果

(2012. 7. 26. 平成 24 年度第一回男女共同参画委員会)

## I. 企画の概要

1. 目的：医学系研究科・医学部の構成員が男女を問わず能力を十分に発揮してキャリアを形成・維持・向上できるようにするためには、仕事とライフイベントの両立がしやすい環境を整備することが不可欠である。2009 年に当委員会が行ったアンケート調査では、子育てと仕事の両立のために必要な項目として、「保育施設の充実」以外に、「周囲やトップの理解」「キャリア支援制度の充実と周知」「経験者との話し合い」「相談できる人の存在」などが挙げられ、「キャリア教育」の要望も寄せられた。本企画は、このアンケートの結果も踏まえ、学生や教職員を対象に、キャリア支援制度の紹介、ならびに、キャリア形成とライフイベントを両立中の様々な事例の呈示や情報交換を行うことにより、若手の医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高めるとともに、当研究科・学部内において、ライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを形成する生き方への理解を深めることを目的とする。
2. 日時：2012 年 6 月 27 日（水）  
第一部：16:40～18:00  
第二部：18:00～19:00（第一部、二部とも、途中入退場可）
3. 場所：東京大学医学図書館 3 階 333 会議室・310 会議室
4. 対象：医学科 M1～M4 学生・医学部附属病院医師・医学系所属の大学院生や研究者（男女不問）
5. プログラム：  
第一部 16:40～18:00（333 会議室） 司会 北中幸子・細谷紀子  
ご挨拶（矢富裕 副医学系研究科長、長瀬隆英 男女共同参画委員会委員長）  
キャリア支援制度の紹介（小児科 水野葉子）  
現役医師・研究者の体験談  
— キャリア形成とライフイベントの両立 —
  - ・細谷紀子（疾患生命工学センター）
  - ・基礎医学系男性教員
  - ・皮膚科女性医師
  - ・沖永裕子（肝胆膵外科）
  - ・菅原寧彦（人工臓器・移植外科）
  - ・松本陽子（女性診療科産科・女性外科）
  - ・北中幸子（小児科）全体討論  
第二部 18:00～19:00（310 会議室）  
自由歓談・情報交換
6. 企画・運営：東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会（委員長 長瀬隆英）  
医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会  
幹事：北中幸子・細谷紀子  
委員：大友夏子・田村純人・松本陽子・水野葉子・築瀬森明・渡部徹郎（教職員）  
江上尚子・松本容子・井上理美・平木崇正・佐藤要・巻和佳奈・向川早紀（学生）

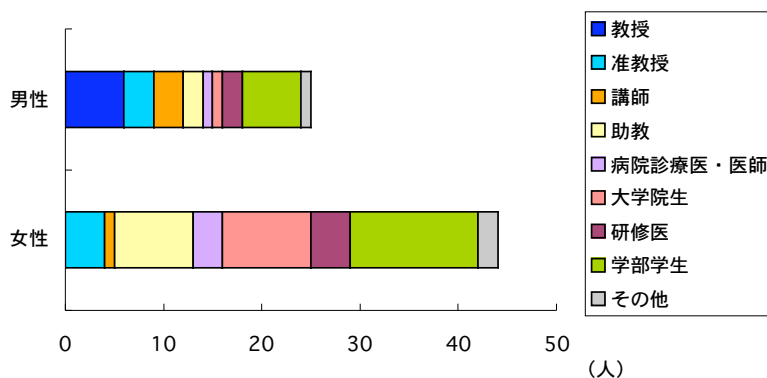
## II. 開催報告

### 1. 参加者数と属性（受付での記帳より）

職名(特任、客員を含む)	男性	女性
教授	6	0
准教授	3	4
講師	3	1
助教	2	8
病院診療医・医師	1	3
大学院生	1	9
研修医	2	4
学部学生	6	13
その他	1	2
計	25	44

(人)

参加者内訳（男女・職位別（特任を含む））



(人)

### 2. 当日配布資料

- 資料1 プログラム（ポスター）
- 資料2 東京大学大学院医学系研究科・医学部 男女共同参画委員会について
- 資料3 医学系研究科・医学部附属病院における主なキャリア支援制度（育児・介護等）
- 資料4 アンケート調査用紙

### 3. 会の概要（注：一部の演者については、希望により匿名にて記載）

開会にあたり、まず、矢富裕副医学系研究科長より、本交流会が「男女共同参画週間」中のタイムリーな開催であること、また、「男女共同参画」が日本の再生・復興の柱の1つである旨の話があった。さらに、近年、附属病院の女性医師の数が増加傾向にあり、今年度の医学科 M1 の女子学生数も 27 名まで増加していること、当委員会のホームページや医学部附属病院の「両立支援のひろば」のホームページ（院内限定）などから医学系研究科・医学部においても男女共同参画がゆっくりと着実に進んでいることが伺えるが、今後はさらに推進していかなければならない旨の話があった。続いて、長瀬隆英委員長より、配布資料2に基づいて、医学系研究科・医学部の男女共同参画委員会のこれまでの活動と本交流会の開催の経緯について説明がなされた。

次に、小児科の水野葉子医師より、配布資料3に基づいて、医学系研究科・医学部附属病院におけるキャリア支援制度について、利用者としてのコメントも交えながら、紹介が行われた。

講演（体験談）のコーナーでは、妊娠・出産・育児・介護などのライフイベントを経験しながら本学で仕事をしている7名の様々な年代の男女の現役医師・医学研究者より、自己の経験をもとにしたノウハウ、問題点、後輩へのアドバイスなどが披露された。一人目の演者の疾患生命工学センターの細谷紀子講師からは、臨床の教室でのキャリアを経て基礎医学研究に進む中で2人の子供を育ててきた体験を踏まえ、医学部の学生時代から卒業後の各時期における心構えについてメッセージが送られた。キャリア形成においては、様々な節目において、自身の価値観（興味のある分野や望む生き方）や自分の強みや弱みを再確認し、自分の特性や強みを活かせる医学の分野に自ら参画し貢献していく意欲や姿勢が大切であること、そして、育児との両立にあたっては、積極的に情報を収集して自分に合った支援サービスを利用し、時間の使い方を工夫して“良い”仕事をしていくことを心がけることが重要であることが述べられた。二人目の演者の基礎医学系男性教員から

は、「大切なことは子育てから学んだ」というタイトルの「論文」の形式で、研究者である妻との二人三脚で米国と日本で研究をしながら子供を育ててきた経験 (Materials and Methods, Results) と考察 (Discussions) が披露された。Survive できた内的要因として、子育てが楽しかったこと、一生懸命働く一方で家事ではハードルを下げたこと、子供の乳幼児期には米国におり、中学受験期には夫婦ともに自分の時間をマネージできるポジションにいた等、タイミングが合っていたこと、そして、環境要因として、上司の理解や周囲の協力などが挙げられた。また、互いのキャリアを尊重し合える関係のパートナーを見つけることの重要性が語られた。続いて、若手 (卒後 10 年未満) の皮膚科女性医師と肝胆膵外科の沖永裕子医師より、保育園児を育てながら仕事をしている日常が語られた。皮膚科女性医師からは、キャリア形成にあたり、専門性を身につけることとメンターに出会うことの重要性が、また、今後の仕事と子育ての両立支援の課題として、病児保育と学童保育の充実の要望が挙げられた。沖永医師からは、「外科専門医」の取得を目指していること、そして、現在は大学院生として、直属の上司と「臨床」「研究」「生活の維持」「子育て」の 4 つの柱について定期的に面談を行い、所属チームの先生方にも助けていただきながら、着実にキャリアを形成しつつあることが語られた。次に、肝移植を専門とされている人工臓器・移植外科の菅原寧彦准教授から、臨床・研究の activity が高い環境でも、工夫次第で仕事の quality を下げずに家庭と両立することが可能であることが語られた。家庭においては、日々の子供の送り迎え、勉強のサポートなどを担当され、24 時間の分割管理、集中して短時間で最大限の仕事をするために術式の改良を行うことも含めた様々な工夫や努力をされていることが紹介された。一方、工夫だけでは乗り越えられない現実として、コアタイム以外の時間帯に開催される会議に出席できないことが語られた。六人目の演者の女性診療科産科・女性外科の松本陽子助教からは、大学院時代に 2 児を出産後、臨床、研究、子育てに精力的に取り組んできたことが語られた。帰宅が遅くなる曜日や月 3 回の当直の日は予め分かるので、前もって両親や夫の協力を仰いで対応していること、さらに、最近の女性診療科産科・女性外科への入局者は圧倒的に女性が多く、科として、積極的に仕事と育児の両立支援の取り組みが行われていることも紹介された。例えば、女性診療科産科・女性外科では、現在、「特任助教」として当直のない助教枠を原則 1 年間を限度に子育て中の女性医師に優先的に割り当てていること、また、病院診療医などの短時間勤務の可能なポジションへの就任や産休の取得についても科としての配慮があることが述べられた。最後の演者の小児科の北中幸子准教授からは、親の介護、2 児の子育て、夫と居住地が離れることなどを経験しながらも、自分の専門領域の臨床と研究で自身のステータスを作りつつキャリアを積み上げてきたことが紹介された。周囲の理解があれば援助がなくても何とかやっていけること、子育て期の前にキャリアを積んでおくことと有利であること、多様な経験が医師としての豊かさにつながることで、今後は、多様な生き方を選択できるように周囲の理解を深め、意欲のある人を応援したい旨のメッセージがあった。

全体討論では、学生、教員から「周囲の理解を得るために必要なことは?」「子育てを他人に委ねることの心のハードルの乗り越え方は?」「適切な出産のタイミングは?」などの質問があり、演者らからは、興味を持った分野に進み、仕事をきっちり行うことを前提とした上での様々なアドバイスが送られた。また、会場から、初期研修医や常勤教職員は色々な支援制度を利用できるが、専門研修医・大学院生・医員への支援は診療科の裁量にも依存しており、様々な身分を渡り歩く医師のキャリア支援制度の設計の難しさを感じている旨のコメントもあった。最後に、国土典宏教授や清水孝雄前医学系研究科長・現東大理事からも感想やコメントをいただき、第一部を終了した。

第二部では、20 名程度の学生と教職員が入り混じり、自由歓談と情報交換が行われた。

### III. 参加者アンケートの集計結果

回収数：39 件（回収率 56.5%）

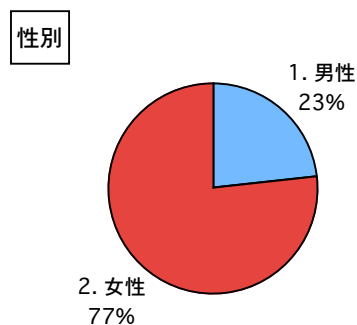
回収方法：当日参加者にアンケートを配布し、回答を記入いただいた上、退場時に回収した。

後日に提出された回答（2 件）についても、集計に加えた。

#### <基本情報>

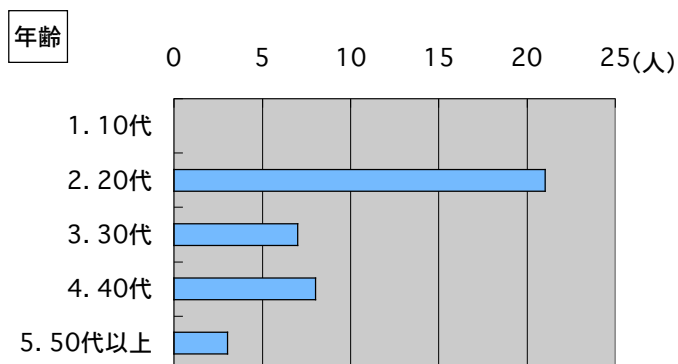
##### A1) 性別

性別	n	(%)
1. 男性	9	23
2. 女性	30	77
無回答	0	0



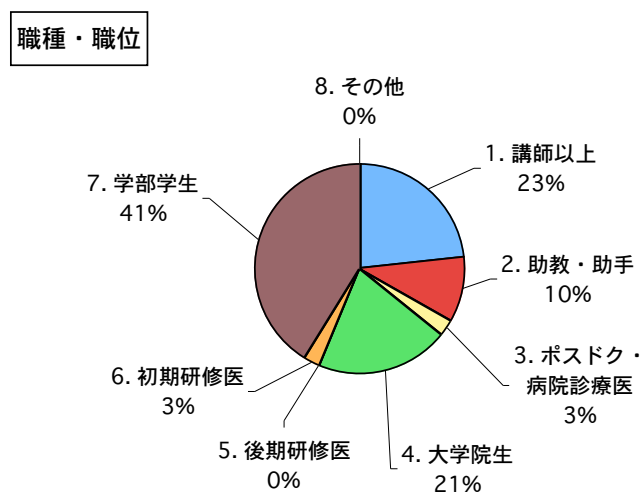
##### A2) 年齢

年齢	n	(%)
1. 10代	0	0
2. 20代	21	54
3. 30代	7	18
4. 40代	8	21
5. 50代以上	3	7.7
無回答	0	0



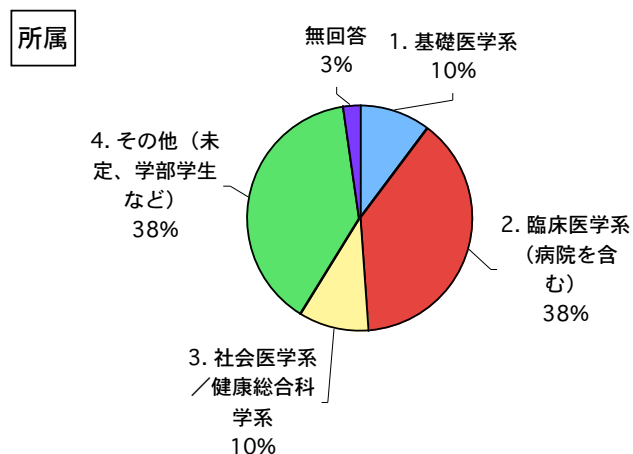
##### A3) 職種・職位（特任・客員を含む）

職種・職位	n	(%)
1. 講師以上	9	23
2. 助教・助手	4	10
3. ポスドク・病院診療医	1	2.6
4. 大学院生	8	21
5. 後期研修医	0	0
6. 初期研修医	1	2.6
7. 学部学生	16	41
8. その他	0	0
無回答	0	0



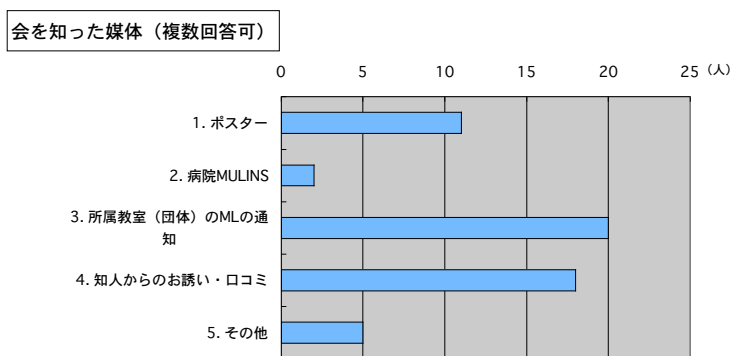
A4) 所属

所属	n	(%)
1. 基礎医学系	4	10
2. 臨床医学系(病院を含む)	15	38
3. 社会医学系/健康総合科学系	4	10
4. その他(未定、学部学生など)	15	38
無回答	1	2.6



A5) この会を何でお知りになりましたか(複数回答可)

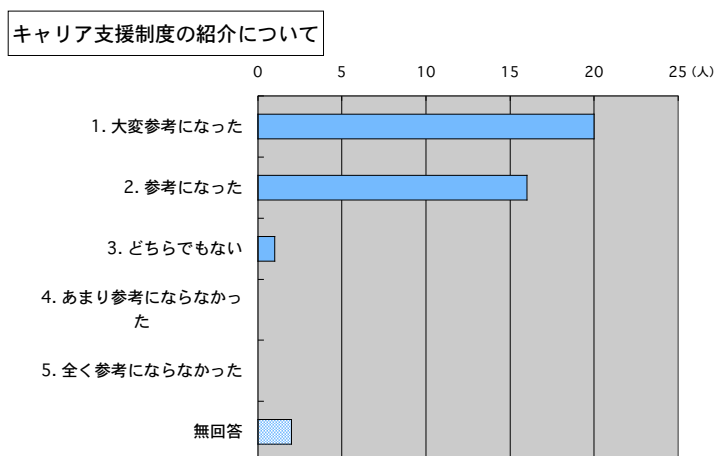
会を知った媒体(複数回答可)	n	(%)
1. ポスター	11	20
2. 病院MULINS	2	3.6
3. 所属教室(団体)のMLの通知	20	36
4. 知人からのお誘い・口コミ	18	32
5. その他	5	8.9
無回答	0	



<今回の企画の感想について>

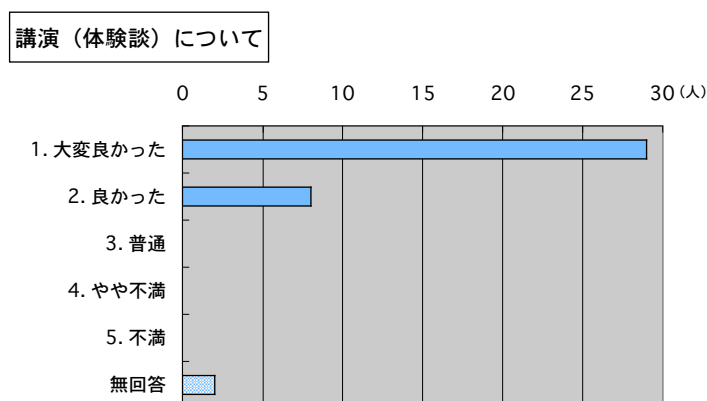
B1) キャリア支援制度の紹介について

キャリア支援制度の紹介	n	(%)
1. 大変参考になった	20	51
2. 参考になった	16	41
3. どちらでもない	1	2.6
4. あまり参考にならなかった	0	0
5. 全く参考にならなかった	0	0
無回答	2	5.1



## B2) 講演（体験談）について

講演(体験談)	n	(%)
1. 大変良かった	29	74
2. 良かった	8	21
3. 普通	0	0
4. やや不満	0	0
5. 不満	0	0
無回答	2	5.1



### 【自由回答（講演について、とくに良かった内容や、他に聞きたかった内容）】

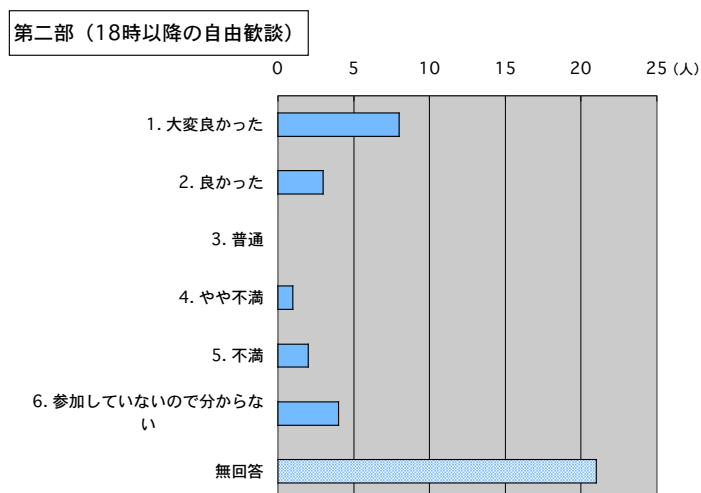
- ・ 体験そのもの、楽しそうな表情… すべてに勇気をもらいました。
- ・ 自分の興味のある道に進んで、その上で家族を大切にしていけるような医者になりたいと感じさせられ、非常に貴重なお話ばかりでした。
- ・ いろいろな経験や、先輩の支援があると、自分のキャリアを積む励みになります。また、周囲の理解ばかりに甘えず、人に納得してもらえるような仕事・人間性を磨きたいと思いました。
- ・ 先生方の日常のスケジュールが参考になりました。
- ・ 非常に励まされました。
- ・ 諸先生方が仕事と家庭を両立され生き生きとされているお姿は大変勇気づけられました。
- ・ みなさまの頑張りに刺激されました。
- ・ 具体的な体験を聞いたのでよかったです。
- ・ 地方ご出身の先生方の工夫を伺えて、大変参考になりました。
- ・ 幅広い世代の方の体験が聞いてよかったです。
- ・ ご家庭との両立について、具体的なコツや考え方を伺うことができよかったです。時間のやりくりの方法を知り、将来のビジョンを持つ上で、女性男性問わず、参考になる内容だったと思います。今後も先生方のキャリア形成や、時間の使い方、考え方について学んでいく機会がございましたら幸いです。
- ・ 特に男性からの講演が新鮮で良かったです。
- ・ 男性教員の先生のお話が面白かったです。将来とか不安だったのですが、とっても前向きな気分になりました。参考になりました。
- ・ 男性の方も育児中は時間外カンファには欠席されていることを知ったこと（が良かった）。
- ・ 「女子だから外科はないよね」と同級生や先生方から言われることもあり、こちらは外科を含め、熱意を持って取り組んでいるのに、と違和感を抱いていました。しかし男子と対等に扱われることを求め、果たして家庭を築いていけるのだろうかと悩んでいました。女性には妊娠・出産があるので、男性と完全に同等にはキャリアを論じることはできませんが、家庭との両立というテーマが、女性男性の垣根を超えて議論されればと思いました。
- ・ 周りの理解があまりない中で、自分の方向がはっきりしていない場合に本当に迷いが多く

なります。なかなか自分に自信を持ってものを考えるのが難しくなりがちで、‘後ろめたさ’というのが、時に難敵です。このような場で色々な話を聞く機会があるのはとてもよいことだと思います。(各々の希望する形での) 育児と仕事の両立が、育児中の人にも育児中でない人との間でも当たり前と考えられる世の中になるといいと思います！本日は途中までしか聴けず残念でしたが、また次回を期待しております。(2児育児中の者です。)

- ・ 具体的な生活、どこで情報をえて、どうしているか聞きたかったです。何歳ぐらいでお子様を持ったほうがよかったとか、どういうサービスをどこにとか聞きたかったのでよかったです。両立(夫婦で)はどうしている方がいるんですかね。みなさま、モチベーションが高く、よく私自身くじけそうになるのですが、刺激になりました。
- ・ 様々なライフスタイルの先生方のお話を聞いて参考になりました。結婚の時期が遅かった先生のお話なども聞けるとよかったです。
- ・ 自身はフルタイムで頑張りたいと思っていたので、本日のようにバリバリと頑張っている先生方のお話は非常に貴重でした。ただ、若い方もいらっしゃるの、病院診療医の先生の話も聞けたら参考になるかと思いました。
- ・ 男女、キャリアの段階が様々な演者による講演であったので、参考になったと思う。一方で、今回の演者らがスーパーな医師であるのも現実で、色々な局面で乗り越えられず、失敗やあきらめを経験した医師の現実の方が制度改革には重要な情報かも、と思います。そこをどう、すくいあげるか。今後の課題です。
- ・ 学生へのアドバイスや‘これをしてよかった/やめておけばよかった’など、また周囲から‘これをしてもらって助かった’などあれば教えて頂きたいです。
- ・ 現在学外にいらっしゃる方のお話も伺いたかったです。(外病院・開業なさった方など)
- ・ 子育てだけでなく職探し(特に研究職について)の話も聞きたかった。

### B3) 第二部 (18時以降の自由歓談) について

第二部(18時以降の自由歓談)	n	(%)
1. 大変良かった	8	21
2. 良かった	3	7.7
3. 普通	0	0
4. やや不満	1	2.6
5. 不満	2	5.1
6. 参加していないので分からない	4	10
無回答	21	54



#### 【そのように回答した理由 (自由回答)】

##### ■ 「1. 大変良かった」と回答した方

- ・ 基礎医学系男性教員の先生を中心に、様々な経験をおうかがいできました。

・会の趣旨からして、ご家庭のある先生方も多く、仕方のないこととは承知しておりますが、思っていたよりもあっさりしていた印象でした。とはいえこの懇親会までは、先生方と家庭について、じっくりお話しする機会がございましたので、大変興味深かったです。また、直接質問をさせていただいたり、貴重な経験となりました。

■「4. やや不満」と回答した方

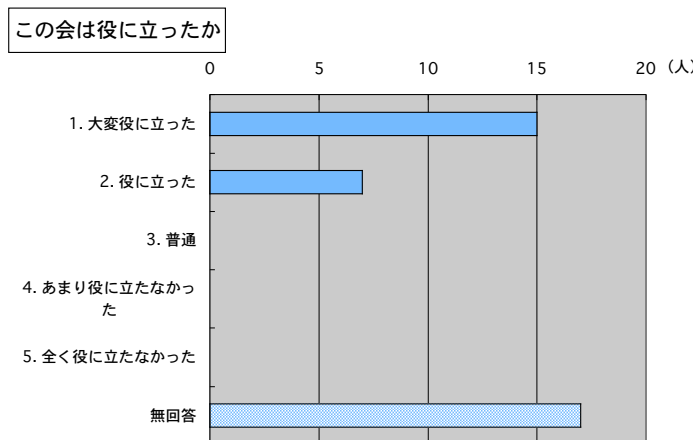
・忌憚のない意見交換が出来たのは大変良かった。一方で、学生と演者、実行委員会以外の参加者のほとんどが参加されず、一般参加者との対話を楽しみにしていたが、かなわなかった。

■「5. 不満」と回答した方

・保育園など、シッターさんも 18:00 以降は、頼みにくさがありまして。

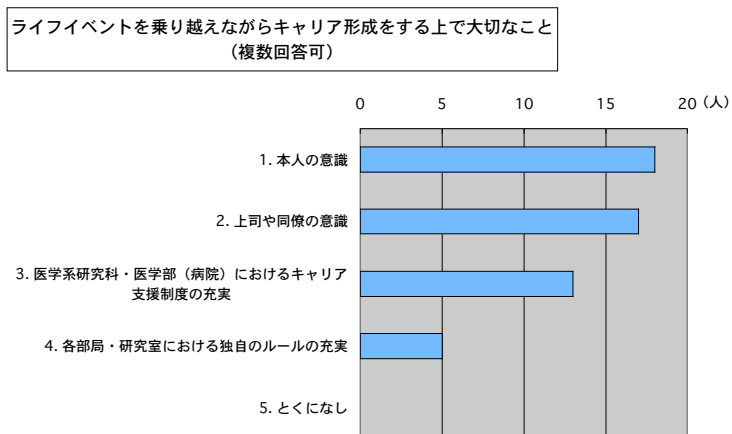
B4) この会は役に立ちましたか。

この会は役に立ったか	n	(%)
1. 大変役に立った	15	38
2. 役に立った	7	18
3. 普通	0	0
4. あまり役に立たなかった	0	0
5. 全く役に立たなかった	0	0
無回答	17	44



B5) この会に参加して、ライフイベントを乗り越えながらキャリアを形成していくためには、何が大切だとお感じになりましたか。(複数回答可)

ライフイベントを乗り越えながらキャリア形成をする上で大切なこと (複数回答可)	n	(%)
1. 本人の意識	18	34
2. 上司や同僚の意識	17	32
3. 医学系研究科・医学部(病院)におけるキャリア支援制度の充実	13	25
4. 各部局・研究室における独自のルールの充実	5	9.4
5. とくになし	0	0
無回答	15	

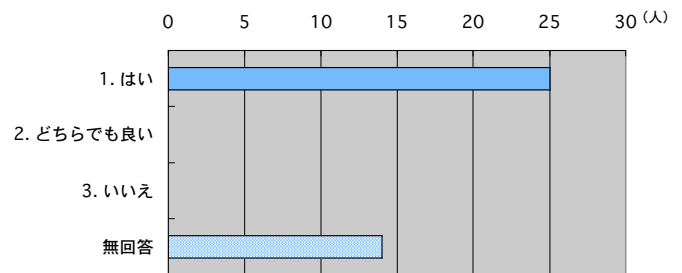


B6) 各部局・研究室におけるキャリア支援体制について、情報の共有が出来た方が良いと思いますか。



キャリア支援情報の共有は必要か	n	(%)
1. はい	25	64
2. どちらでも良い	0	0
3. いいえ	0	0
無回答	14	36

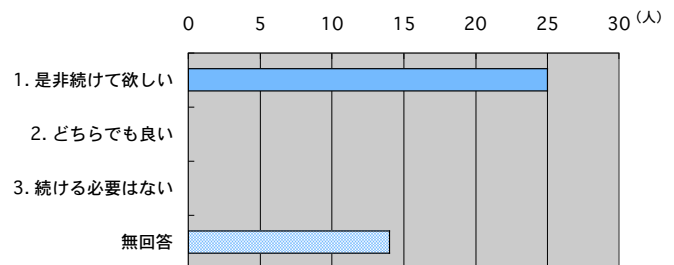
キャリア支援情報の共有は必要か



B7) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われますか。

今後もこのような企画を	n	(%)
1. 是非続けて欲しい	25	64
2. どちらでも良い	0	0
3. 続ける必要はない	0	0
無回答	14	36

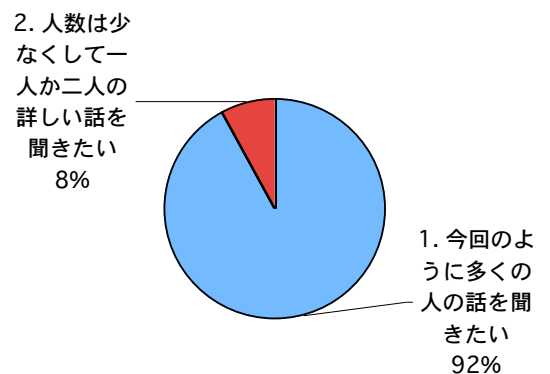
今後もこのような企画を



B8) 前問で1と回答された方は、次のどちらをご希望されますか。(n=25)

前問で1と回答された方は	n	(%)
1. 今回のように多くの人話を聞きたい	23	92
2. 人数は少なくして一人か二人の詳しい話を聞きたい	2	8

「是非続けて欲しい」と回答された方は (n=25)



B9) B7) で 1 と回答された方へ。その他、開催時期、内容などに御要望があればご自由にお書き下さい。

- ・ いきいきと話されているご様子に勇気をもらいました。色々な方のお話をまた拝聴したいです。
- ・ 今回くらいのテンポの良さ、話の長さを希望します。

- ・ 1人1人のお話をじっくり聞く機会があればよいと思います。
- ・ 半年に1度くらいあるとよいと思う。
- ・ 年2回ぐらいあったらうれしいです。たまに、つぶれそうになるので。保育園入園前や入園後、少し落ち着いた時にお伺いできるとうれしいです。両立のため、具体的なお話がありがたいです。
- ・ 年に3-4回、同様に。
- ・ 1時間弱の会を定期的で開催していただけたら、多くの情報を知り、交流も深まるように思いました。このような全体会に加え、おひとりおひとりのエピソードにクローズアップして、対話形式のランチ会 or 夕食会を行うのはいかがでしょうか。
- ・ 昼食時間の1時間だけでもいいかもしれません。
- ・ 研修医の先生が参加しやすい時間帯・曜日にとしてみるといいかなと思います。
- ・ 勤務もあるので難しいとは思いますが、第2部は時間的に保育園などのかねあいもあり出席が少し難しいのが残念でした。
- ・ 開催時期は、学生や初期研修医が進路を考え始める今回の時期が適切であったと思います。今回は網羅的になりましたが、例えば、「ゼロ歳保育、私たちの苦勞」というようなシングルトピックで秋にもう一回行うのも参加者があるのではないのでしょうか。
- ・ 夫にもきかせたいです。私は恵まれた先生方にあいりましたが。

C1) 今後、男女共同参画委員会で行って欲しい活動やご意見ご希望がありましたらご記入下さい。

- ・ これからもこのような企画を期待します。
- ・ このような会が今後も継続的に開催されることで、周囲の認知が広がり後輩たちへの勇気づけのきっかけになればいいなと心から思います。
- ・ 定期的で開催してください。
- ・ 回数をふやしてほしいです。どんな人でも気軽にこられるような会もあるとうれしいです。
- ・ 男性がより大勢参加できるようなアピールをしていただければと思います。
- ・ 親にも聴かせていただきたいです。
- ・ 育児休業は男性も取得可となっていますが、実際にとっていらっしゃる方はいらっしゃるのでしょうか。
- ・ 気軽にいろんなかたのプライベート・体験を聞ける座談会など（をやって欲しい）。
- ・ ランチの時間に交流イベントを行うというのはいかがでしょうか。
- ・ 時間外公式カンファの禁止の徹底
- ・ ローカルルール(科ごとの)の撤廃
- ・ 診療科の意識改革は大切ですが、既に限界だと思います。診療科の裁量は思われているほど大きいものではありません。また、病院で働く医師職は医学部とは距離がある一方で、病院側でなにか改革をしようにも大学本部の意向で全学横並びでなければ変えられません。病院の建物内であれば、将来的にはまだ可能性があると思いますので、新病棟建設や研究棟改修にあたって24時間・病児保育の施設実現に向けて本会の活動の成果を公式に残し、執行部に伝える手段が必要だと思います。